

会 議 要 旨

(1 / 6)

会議の名称	令和6年度第2回川越市立美術館協議会
開催日時	令和7年3月14日（金） 午後2時開会・午後3時30分閉会
開催場所	川越市立美術館会議室
会長氏名	（会 長） 宮澤光造
出席委員氏名 （人数）	（副会長） 山田誠次 （委 員） 青柳達雄・吉岡知子・西野 博・横山敦子 岡部秀子 （8人）
欠席委員氏名 （人数）	山崎共子・瀬下洋之 （2人）
事務局職員 職・氏名	館 長 山田明子 副館長 折井貴恵 副主幹 相田祐次
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1)令和7年度事業計画 (2)その他 4 閉会
配付資料	・ 次第 ・ 令和7年度事業計画 ・ 令和7年度展示案内 ・ 図録「江戸のお洒落装身具」 ・ 川越市美術協会展チラシ、同ポスター

議 事 の 経 過

議事

議題(1) 令和7年度事業計画について

事務局 資料1：展示について説明。
 特別展2回開催は変わらないが時期については、夏期・秋期から秋期・冬期に変更する。
 近年の暑さの影響からか来館者が少ないため開催時期をずらした。

議長 資料1についての意見はあるか。

委員 夏期の特別展をやめるということだが、去年の夏期の特別展の入館者数はどうだったのか。

事務局 観覧者数は4, 292人であった。
 小中学校に働きかけるなどしたが目標人数には達しなかった。夏休みの宿題に組み入れたことで訪れた小中学生は多かった。

委員 令和7年度に予定している特別展の来館者数の目標はどのくらいか。

事務局 秋期特別展が5, 300人、冬期特別展が5, 000人である。

委員 人数設定は何を根拠にしているのか。

事務局 過去の同時期、同様のテーマで開催した類似展覧会の平均に目標としての努力値を加えて求めている。

議長 ほかに意見がなければ資料2に入る。

事務局 資料2：教育普及について説明。
 ワークショップのうち、小学生を対象とした事業については、前回の協議会における意見を反映し、学校事業に重ならないように日程を組み、学校事業が多い時期には一般も対象とした事業を配置する。
 夏期特別展に代わり金沢健一展を現在の冬期から夏期に移す。
 常設展の第1期は、小学生のバス見学を意識して構成しているが、バス見学の実施は後半の比重が高まっている。
 サポートスタッフは、これまで期限を設けていなかったが、多くの人が参加できるように任期を3年とした。バス見学対応のため相原求一朗記念室の解説を担当する展示解説補助という新事業を予定している。

議 事 の 経 過

- 議長 資料2についての意見はあるか。
- 委員 展示作品の鑑賞解説補助は新しい試みだと思うが、作品解説の指導はどのように行うのか。
- 事務局 オリエンテーションを行い、学芸員によるレクチャー、ビデオ鑑賞などで相原さんについて基礎的なことを学び、6月から7月までは学芸員が行う様子を見学、9月から11月までの期間から実施に入り、最初は学芸員同伴で行い、その後独立する予定である。
- 委員 特選展では自分の作品が展示してあると来館する機会になるようであったが来館者数はどのくらいか。
令和6年度は夏休みの課題により美術館を訪れる児童が多かった。令和7年度には課題を設けるような事業はあるか。
- 事務局 特選展の来場者は794人である。
夏期の常設展は、岩崎勝平の特集的な展示になる予定であり、来館することでもたちの学習機会になるようにしようと考えている。
令和6年度の経験を生かして小さい子でも参加できる方法を考えたい。
- 事務局 特選展では家族の来館が多く、普段美術館を訪れることのない方が来館する機会になっており、この事業を続ける価値を感じる。他の施設より美術館が会場であることがいいというアンケートの回答を頂いている。

議題(2) その他について

- 事務局 美術館の大規模改修について口頭で説明（配付資料なし）。
20年目改修に当たり、美術館として必要な改修を加えた大規模改修として実施する予定である。
美術館の活動、在り方について理解できるような説明が求められている。改修工事に当たり、①長寿命化、②照明のLED化、③展示室を24時間空調にする、④市民ギャラリーの高所作業を解消して安全・安心を確保する、⑤省エネルギー対策という5項目を課題として取り組む予定である。

議 事 の 経 過

委員 美術館の生かし方を職員がここだけで話しても進まない。市民の意見を代表するような形で進める必要がある。それも個人の意見では通らないので団体などから要望することが望ましい。

委員 協議会でまとめた意見を提出することも考えられる。

委員 議事録ではなく、協議会の要望として提案することは可能だろうか。

事務局 この協議会は、市長の諮問機関になっている。市長が美術館の運営について諮問し、それに対する答申とすることができる。
現在、そこまでの形式を行っていないため、もう少し協議会としてできることは考えられる。

委員 予算はついていないというが、事業はどのようなスパンで考えているのか。

事務局 美術館において基本計画を作り、基本設計を委託、その後実施設計に移り、施行する予定である。工事期間中は休館もあり、作品の保管についても考える必要がある。開館25周年記念展を経て工事に入りリニューアルを機に多くの方が訪れるように活性化を図る。

事務局 令和7年度予算は市長が変わることから現在のものは骨格予算であり今後、新市長の意向を反映した肉付けが行われる。当初ではなく補正によって予算化を目指すため、事業を理解してもらえるように努めることが必要である。

委員 美術館改修において最も早く取り掛からなければならないものは何か。

事務局 空調設備である。展示室と収蔵庫を万全の状態にしておきたい。

委員 市役所内に建物工事を行う担当課はあるのか。

事務局 ある。ただし、市全体の施設における改修工事が集中しているほか、美術館は類似施設のない、特徴のある施設であることから対応してもらえず委託を勧められる。

委員 そのために協議会ができることはあるのか。

議 事 の 経 過

事務局	これから力になっていただくことがあると思われるので、よろしくお願いしたい。
委員	LED 照明は、将来的に蛍光灯などの照明設備が無くなることから必然である。空調設備は、作品を借りるうえで欠かせないものである。
委員	現在、展示室は24時間空調ではないのか。
事務局	建設時は24時間空調の考え方がなかったため設備がない。相手方の貸し出しの条件で24時間稼働させたことがあるが通常は行っていない。多くの美術館が24時間空調になっている。
委員	空調はリースでもできる。年度当たりの経費を抑えるには有効な手段である。本校では予算が無いことからリースで導入した。そのような検討はしているか。
事務局	空調のリースは、これまで考えたことがなかった。照明についてはリースも含めて検討している。
委員	太陽光発電はあるか。本学では、電気事業者に設置場所を提供し、事業者がソーラーパネルを設置して発電した電気から電気代を負担するという方法をとっている。
事務局	ある。屋上の平面と、屋根の東面に設置している。市の施設において、美術館規模の太陽光発電装置の更新を行ったことが無いため、どのようなことが考えられるかという前例が無い。
議長	1年の活動を通して各委員から一言ずつ意見をお願いしたい。
委員	観覧料については現状の金額よりも高くてもいいのではないかと。施設の存続を考えるに当たり収益は重要であると思う。
委員	インスタグラムによる情報発信は行っているか。埼玉県では積極的な活用を求めている。若い人には有効な情報伝達の方法である。
事務局	インスタグラムはIDが広報室経由となる。美術館はX（エックス）およびフェイスブックのIDを所持し、情報発信している。 来年度から著作権者に相原求一郎記念室の撮影許可を得ている。

議 事 の 経 過

委員 本年度の特別展は、異なる印象がよかった。大河ドラマなどに関連付けるなどにより効果を期待できるかもしれない。そうしたことも試みてほしい。写真撮影については、作品または展示により撮影を可能にする方法もあるのではないか。

自分の作品が展示されていると来館する効果も期待したい。

委員 個人的には写真撮影に関心はないが、撮影したい人がいるなら、注意事項を踏まえて許可すればいいのではないか。

著作権、シャッター音についても配慮しなければならない。

委員 最近、撮影を許可している美術館が増えている。展覧会、展示室、展示場所、作品など区分して可能なもの許可すればいい。

画像データを発信していくことの大切さを感じている。

委員 美術館は鑑賞後、感想・意見を交わす場所がほしい。屋外にデッキのような場所があり休めるといいと思うが、できないか。

画像データの拡散はいいと思うが、写真作品に限っては難しい点がある。最近写真作品を複製した作品を自分のものとして発表する人もあり、特に写真展示については撮影許可に課題があると思っている。

議長 全体を通して何か意見はあるか。無ければこれで終了する。

■ 令和7年度 事業計画（展示）

【特別展】

※観覧料（ ）は団体〔20人以上〕料金。障害者手帳所有者とその介助者1人は無料。

展覧会名・会期・観覧料	概 要
〈小江戸文化シリーズ〉6 勝田蕉琴展 10月25日(土)～12月7日(日) (39日間) 大人 700円(560円) 大高生 350円(280円) 中学生以下 無料	勝田蕉琴(かつたしょうきん・1879-1963)は、福島県東白川郡棚倉町出身の日本画家です。東京美術学校を卒業後、岡倉天心の推薦により、アジア人で初めてノーベル文学賞を受賞した詩人・ラビンラナート・タゴール(1861-1941)の家に招かれ、インドの美術学校で日本画の技法を教えました。帰国後は、主に文展・帝展(政府主催の展覧会)を舞台に活躍し、同展の審査員を務めるなど、画壇の重鎮として認められています。 蕉琴は、父が松平周防守家に仕えていたため、画家を志して上京した際には川越の親戚の家に寄宿し、川越藩の御用絵師であった橋本雅邦に師事しました。このことから、川越ゆかりの画家のひとりに数えられます。 本展では、代表的な作品を中心に約50点を展示し、画業の全容に迫ります。
〈タッチアート〉 その後の彫刻4人展 原透、佐藤忠、高梨裕理、塩谷良太 1月31日(土)～3月22日(日) (44日間) 大人 700円(560円) 大高生 350円(280円) 中学生以下 無料	当館の特徴である、だれでも気軽に作品に触れて鑑賞できる無料のスペース「タッチアートコーナー」では、開館以来、趣旨に賛同いただいた50人以上の作家による、さまざまな素材の立体造形作品を紹介してきました。本展は、令和2年度までにタッチアートコーナーに展示をした作家から、石や木を素材に制作する彫刻家・原透(1959-)、金属を扱う彫刻家・佐藤忠(1966-)、木の彫刻家・高梨裕理(1970-)、陶で表現活動する塩谷良太(1978-)の4人を選び、その後の作品展開を紹介するものです。タッチアートコーナーの展示の拡大展として、触れて鑑賞できる作品を含めた作品を展示します。会期中、各作家による、アーティストトークやワークショップを実施します。

【常設展】

※観覧料は大人 200 円（160 円）・大高生 100 円（80 円）・中学生以下無料。

※観覧料（ ）は団体〔20 人以上〕料金。障害者手帳所有者とその介助者 1 人は無料。

テーマ・会期	概 要
第 1 期 3 月 26 日(水)～6 月 22 日(日)	川越ゆかりの作家たち 相原求一郎の画業 1
第 2 期 6 月 26 日(水)～9 月 15 日(月)・(祝)	生誕 120 年 岩崎勝平 相原求一郎の画業 2
第 3 期 9 月 18 日(木)～12 月 14 日(日)	The 日本画―橋本雅邦・小茂田青樹を中心に 相原求一郎の画業 3
第 4 期 12 月 23 日(火)～3 月 22 日(日)	コレクションいろいろランキング 相原求一郎の画業 4

【タッチアートコーナー】 ※観覧無料

テーマ・会期	概 要
第 1 期 ふれてみて作品のふしぎ 3 月 26 日(水)～6 月 22 日(日)	館蔵品から、形や素材の異なる作品を複数選び、あわせて前年度特別展で制作した「さわれる絵」を出品する。触ることによって作品の成り立ちを感じ取れる展示とする。
第 2 期 指の温度 小林花子展 6 月 26 日(水)～9 月 15 日(月)・(祝)	木彫家・小林花子（1971- ）は、古い木材を素材に、インスタレーション的な作品を作ってきた。コロナを機に、手の跡を素材に写し取る作品を発表、触っての鑑賞を促している。近作を中心に紹介する。少女時代に狭山で暮らしていたという作家の、里帰りのような展示である。
第 3 期 長谷川さち展 原初の水 9 月 18 日(木)～12 月 14 日(日)	彫刻家・長谷川さち（1982- ）は、石を素材に、可視化することのできない現象や記憶などを彫刻作品として表現している。個展や様々なグループ展に出品する一方、武蔵野美術大学准教授として指導も行う。展示は作品に触れて鑑賞できるようにする。ミュージアム×スクールを実施予定。
第 4 期 梶浦聖子展 手で感じる光と影 12 月 23 日(火)～3 月 22 日(日)	鳩山町在住の造形作家・梶浦聖子（1977- ）による、ブロンズを中心とする立体作品を展示。動物や人間をモチーフにした、独り言のような独特の世界観を持つ立体作品を紹介する。できる限り触れての鑑賞が可能な展示とする。

■ 令和 7 年度 事業計画（教育普及）

【教育普及】

■ワークショップ「ジュニアアートスクエア／アートスクエア」

原則毎月第四土曜日・午前 10 時～正午に開催。制作やアート体験。

講師：美術館職員または外部講師（タッチアートコーナー出展作家等）

ジュニアアートスクエア 対象・定員…小学生・20 人

アートスクエア 対象・定員…どなたでも・原則 20 人

■実技講座

1 日間の基礎的な実技講座を 1 回実施（内容未定）

■金沢健一展

市内にアトリエを構える彫刻家・金沢健一（1956- ）と共催し、展示・ワークショップ・パフォーマンスなどを通して現代美術の鑑賞の在り方を提示する

会期：8 月 5 日(火)～24 日(日)（会期中ワークショップ等を実施）

会場：企画展示室

【学校との連携】

■令和 7 年度第 16 回川越市立中学校美術部展

市立中学校 22 校の美術部／美術系部活動の生徒作品を展示

会期：8 月 20 日(水)～24 日(日)

会場：市民ギャラリー

■「ミュージアム×スクール」

学校の授業に美術館が作家・作品を手配。児童生徒とアーティストとの交流や、児童生徒が実物の作品に触れる機会をつくる。

作家：長谷川さち氏（タッチアートコーナー第 3 期出品作家）

時期：9 月 18 日(木)～12 月 14 日(日)のうちいずれか 1 日

会場：市立小・中学校のうち希望校 1 校（4 月募集予定）

■「ミュージアム×スクール」（埼玉県立特別支援学校塙保己一学園連携事業）

アーティストと作品が授業に参加する。

作家：梶浦聖子氏（タッチアートコーナー第 4 期出品作家）

時期：12 月 23 日(木)～3 月 22 日(日)のうちいずれか 1 日

会場：埼玉県立特別支援学校塙保己一学園

■令和 7 年度川越市小・中学校児童生徒県特選受賞作品展

「身体障害者福祉のための児童生徒美術展覧会」「埼玉県郷土を描く児童生徒美術展」「埼玉県小中学校児童生徒美術展」において特選・県知事賞等を受賞した川越市立小中学校の児童生徒作品を展示する

会期：令和 8 年 2 月 20 日(金)～23 日(月)(祝)

会場：アートホール

■アートカードの貸し出し

希望校に「埼玉アートカード」(80 セット)を貸与し、授業に活用する。

時期：随時

■令和 7 年度小学校第 6 学年博物館・美術館利用（バス見学）【担当課：博物館】

市立小学校 32 校の 6 年生による美術館見学

時期：6～7 月・9～11 月

【サポートスタッフ】

美術館事業を支援するボランティアスタッフ。

令和 7 年度登録者 50 人（見込み）

（参考：令和 6 年度更新登録者 12 人・令和 7 年度新規登録者 38 人）

登録後 3 年まで更新可。

主な支援事業 ■ジュニアアートスクエア、実技講座の支援

■教育普及事業における展示（中学校美術部展、特選展、金沢展）の看視、および関連イベントの支援

■展示鑑賞補助（相原求一朗記念室、タッチアートコーナー）（計画中）

■特別展関連イベント（内覧会、講演会、ワークショップなど）の支援

■広報印刷物の区分・梱包など

教育普及プログラム

■ ジュニアアートスクエア/アートスクエア

アートの体験活動を通して美術の芽を育むプログラムです。

日時 原則毎月第四土曜日 午前10時～正午

対象 小学生(ジュニアアートスクエア)
子どもから大人まで(アートスクエア)

参加費 原則100円

※申込制。詳しくは当館ウェブサイトでご確認ください。



■ 集まって、え・み・へる

常設展の鑑賞の手引きとなる、当館学芸員による解説プログラムです。

※詳しくは当館ウェブサイトでご確認ください。

令和7年度開館カレンダー

■ 休館日 ● 無料観覧日

4	5	6
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
7	8	9
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
10	11	12
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
1	2	3
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

ご利用案内

開館時間 午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休館日 月曜日(12月1日を除く。祝日の場合は翌日)、年末年始(12月29日～1月3日)、特別整理期間(6月24日～25日、9月17日、12月16日～21日、3月24日)

観覧料 観覧券及びグッズの販売は午後4時30分まで

区分	常設展	特別展
一般	200円	特別展ごとに 異なります
大学生・高校生	100円	
中学生以下	無料	

※20名以上の団体は2割引 ※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・障害者手帳「アプリミライID」をご提示の方、及び付き添いの方1名は無料 ※タッチアートコーナーは観覧無料

交通案内 駐車台数が限られているため、公共交通機関のご利用にご協力ください。

■ 東武東上線・JR埼京線(川越線)「川越駅」から

- ・東口7番のりば 東武バス「川越運動公園／埼玉医大／上尾駅西口」ゆきで「川越市役所前」下車徒歩5分
- ・東口1・2・4・5・6番のりば 東武バス「蔵のまち」経由で「札の辻」下車徒歩8分
- ・東口3番のりば 「小江戸名所めぐりバス」で「博物館前」下車
- ・西口2番のりば 「小江戸巡回バス」で「博物館・美術館前」下車

■ 西武新宿線「本川越駅」から

- ・5番のりば 東武バス「川越運動公園／埼玉医大／上尾駅西口」ゆきで「川越市役所前」下車徒歩5分
- ・5番のりば 東武バス「蔵のまち」経由で「札の辻」下車徒歩8分
- ・「小江戸巡回バス」で「博物館・美術館前」下車

※「川越市自転車シェアリング」も便利です(ステーション「博物館・美術館」)



川越市立美術館

KAWAGOE CITY ART MUSEUM

〒350-0053 埼玉県川越市郭町2-30-1
電話: 049(228)8080 FAX: 049(228)7870
<https://www.city.kawagoe.saitama.jp/artmuseum/>
X @kawagoe_art_m @kawagoe.art.m



相原求一朗「風景」1962年

2025 4
↓
2026 3

令和7年度展示案内

EXHIBITION SCHEDULE

川越市立美術館
KAWAGOE CITY ART MUSEUM

特別展

〈小江戸文化シリーズ〉6 **勝田蕉琴展** 10月25日(土)～12月7日(日)



勝田蕉琴《出城駅迦》1907年
福島県立美術館蔵

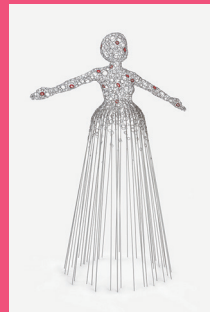


勝田蕉琴《安らかなる鳥の巢》1921年 福島県立美術館蔵

岡倉天心の推薦によりインドへ渡り、帰国後は官展を舞台に活躍した日本画家・勝田蕉琴(1879―1963)を紹介します。福島出身ながら、父親が仕えていた松平周防守家が幕末に川越藩主となったことから、川越とのゆかりも深い画家です。

特別展

〈タッチアート〉 **その後の彫刻4人展**
原透、佐藤忠、高梨裕理、塩谷良太 1月31日(土)～3月22日(日)



(左より)
原透《切光19》2019年
高梨裕理《森の声》2024年 撮影:山本紉
佐藤忠《異教の神話》2020年 撮影:今村進介
塩谷良太《物腰》2022年 撮影:齋藤さだむ+竹内慎

当館タッチアートコーナーでの展示経験のある作家のなかから、石、金属、木、陶を素材に制作する4作家を取り上げ、その後の作品展開を紹介します。一部は触れて鑑賞できる作品を展示します。

企画展示室

2025 **4**
April

5
May

6
June

7
July

8
August

9
September

10
October

11
November

12
December

2026 **1**
January

2
February

3
March

第51回川越美術協会展
(観覧無料)
4月8日(火)～13日(日)

金沢健一展
(観覧無料)
8月5日(火)～24日(日)

特別展
〈小江戸文化シリーズ〉6 **勝田蕉琴展**
一般700円 大学生・高校生350円
10月25日(土)～12月7日(日)

第72回川越市美術展覧会
(観覧無料)
第Ⅰ期 10月1日(水)～5日(日) 第Ⅱ期 10月8日(水)～12日(日)

特別展
〈タッチアート〉 **その後の彫刻4人展**
原透、佐藤忠、高梨裕理、塩谷良太
一般700円 大学生・高校生350円
1月31日(土)～3月22日(日)

常設展示室
相原求一朗記念室

川越ゆかりの作家たち
相原求一朗の画業1
3月26日(水)～6月22日(日)



内田静馬《広告塔のある風景》1969年

生誕120年 岩崎勝平
相原求一朗の画業2
6月26日(木)～9月15日(月・祝)



岩崎勝平《草の上》1954年

The 日本画——橋本雅邦・小茂田青樹を中心に
相原求一朗の画業3
9月18日(木)～12月14日(日)



小茂田青樹《牽牛花》1924年

コレクションいろいろランキング
相原求一朗の画業4
12月23日(火)～3月22日(日)



長沢秀之《網膜》1998年

タッチアートコーナー
(観覧無料)

ふれてみて 作品のふしぎ
3月26日(水)～6月22日(日)



宮澤光造《小さな森》2010年

指の温度 小林花子展
6月26日(木)～9月15日(月・祝)



《指の温度》2023年

長谷川さち展 原初の水
9月18日(木)～12月14日(日)



《全てを含む私、または私を含む全て》2024年
撮影:山本紉

梶浦聖子展 手で感じる光と影
12月23日(火)～3月22日(日)



《Candi Durian》2022年